町指定有形文化財

●木造不動明王立像

嘉慶２年（1388）に正光寺良知別当外３人の寄進によるもので岩座に立ち、剣・羂索の持物を奉持し条帛、腰裳の彫り深く通常忿怒相であるのにこの像は慈顔相であるのが特徴である。材質は胡粉仕立で南北朝時代の作といわれている。像高84cm

●木造毘沙門天立像

南北朝時代（1340～1400）の作といわれ別名多聞天とも呼ばれている。北方の守護神として武士の信仰が厚く甲冑に身をかため、ふつう２匹の邪鬼の上に立つがここでは１鬼に立ち、胡粉仕立で彫りも深く威容に満ちた立像で、材質、技法、仕上げとも不動明王と似合っている。像高84cm

●御正体（懸仏）

鉄鋳造円状板に如来像と推定される半肉彫りの仏像が見られる。懸仏は神仏習合一体の信仰として古く奈良時代に始まるが明治になると神仏分離令が公布され隠伏されるようになった。いつの時代の作か明らかでないが歴史的、学術的にも貴重な工芸品である。面径16cm

●木造役小角座像

修験道（山伏）の開祖である。素地に漆箔仕上げで光背の烏天狗は羽を広げ妖怪の様相をしている。本体は頭巾をかぶり高下駄をはいて岩座に腰掛け右手に錫杖、左手に金剛杵を持ちいかにも天と人界との媒介点としての麗峰を守る王者にふさわしい偉容を誇っている。像高57.5cm